

かがやきの掲載について

研究・研修だより「かがやき」はよりスピーディな情報発信を図り、こどもみらい館のホームページ（「研究・研修」のページ）を通し、回数を増やして発行することとしました。また、ホームページ掲載に加えて、今年度より紙面での発行も行います。

今後も、共同機構研修会の要約のほか、共同機構により研究・研修の取組などをお伝えしていきますので、多くの方にご愛読いただくことを心より期待しています。

こどもみらい館 第三期研究プロジェクト

子どもの育ちの連続性研究プロジェクト

1 目的

小学校との連携や交流等から保育を振り返り、就学前の子どもたちが小学校への憧れの気を持ち、自信や自己肯定感を持って就学していくためには就学前施設（保育園（所）・幼稚園）において何を大切にしていける必要があるのか、また、保育の質と子どもの連続した育ちについて考え「心の育ち」を大切にしたい保幼小連携につなげます。

2 研究テーマ

「子どもの心の育ちに目を向け子どもの育ちをつなぐ保育と保幼小連携を探る」

3 研究方法

(1) 子どもの育ちに関するグループ

心の育ちに目を向けたエピソード検討をもとに保育の質の向上について考察する
～「自信」を育み、つなげる～

メンバー 岩井京子（自然幼稚園）、小林昭雄（共栄保育園）、
佐藤菜々子（京都市立みつば幼稚園）、塚本真弓（京都市辰巳保育所）、
中島真野（京都市南保育所）、坂東祐子（光華幼稚園）、
廣内厚士（京都市立上賀茂幼稚園）

(2) 保幼小連携グループ

心の育ちを大切にしたい保幼小連携に関する研究を進める

メンバー 京都市御池保育所、京都市立中京もえぎ幼稚園、京都市立高倉小学校

子育て支援研究プロジェクト

1 目的

さまざまな機能を持つ子育て支援施設の視察、関係機関職員との意見交換等を通し、なぜ、就学前施設（保育園（所）・幼稚園）が子育て支援をしなければならないのかということ、「子育て支援担当者」の視点と「保護者」の視点から検証し、子育て支援の意義やあり方を考察します。

2 研究テーマ

「親子の育ちを支える子育て支援」

3 研究方法

子育て支援施設の見学や視察などを実施し、関係機関職員との意見交流の場を設け、子育て支援について考察していく。

メンバー 池上孝子（京都市保健福祉局子育て支援部保育課）、
伊藤文（京都市聚楽保育所）、小寺玉枝（京都市船岡乳児保育所）、
佐々木みほ（ゆりかご保育園）高島伊代子（稲荷保育園）、
植田亜希（安井幼稚園）、松本博美（泉山幼稚園）、
村上ちひろ（京都市立伏見南浜幼稚園）、森希美子（京都市立伏見住吉幼稚園）、
山本絹子（同志社幼稚園）

京都市保育士会共催

子どもの心を育てる保育

講師 鯨岡 峻 中京大学教授

現在の保育は「心」を育てることよりも先に「力」をつける保育になっていないでしょうか。そこには「できる」「できない」というこれまでの発達の考え方があると思います。それは子どもの能力面だけを見る視点であり、子ども全体を見る視点ではなく、心が入っていません。子どもは体も知恵も心も発達します。体と知恵は右肩上がりに発達していきませんが、心は複雑にねじれて発達します。それら三つの面の変化がより合わさって一人の子どもの存在を形づくっています。

そこで、これまでの能力発達の考え方ではなく、『人間の生涯は、その時間経過の中でく育てられる者』の立場からく育てる者』の立場に移行し、さらにく介護し・看取る者』の立場からく介護され・看取られる者』の立場に移行していく過程であり、しかもそれが世代から世代へと循環していく過程である』というふうに生涯発達を定義したいと思います。

ではどうすれば目に見えない心に目を向けることができるのでしょうか。キーワードは『接面』です。人と人との関係を問題にしようとする時、その人と人の接面に立ち現れる、当事者それぞれの心の動きや、二人で作る雰囲気、大事なものになってきます。そして人と人がいれば自動的に接面ができるのではなく、接面ができるように相手の気持ちに自分の心を寄り添わせることで、接面がつくられるのです。接面で起こっていることを大事にしていくことが心を育てることに繋がります。接面で捉えられるものは、その接面の当事者以外には分かりません。そこで起こっていることを接面の外にいる人（他の職員など）に知らせたいと思う場合、それをエピソードに書いて読んでもらうしか方法はありません。

自分の接面での体験をエピソードとして描き、後にみんなで読み合って振り返ることが「よい振り返り」になり、保育の質を高めることに繋がるのです。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページへ

保育園(所)・幼稚園に求められる地域の子育て支援

講師 橋本 真紀 関西学院大学准教授

子育て家庭へ支援する際には、子どもの最善の利益を積極的に保障していくことと、その子どもを育てている親、両方について考える視点が大切です。そして、「受容」と「自己決定の尊重」の意味を今一度考えてみましょう。

「受容」とは受け止めることで受け入れることではありません。保護者の否定的な感情や行方も、なぜそのように表現されるのかと相手の立場から解釈し直し、その感情を理解することが大切です。保護者の否定的な感情や行為に振り回されず、その人の立場から理解するためには一定の「知識」が必要です。「自己決定の尊重」とは、決して保護者に選択や判断を迫るものではなく、保護者が自分なりに一つのことを決定するプロセスと一緒に歩み、最終的に選ばれたことを支えることです。答えを教えてしまうのではなく、保護者自身が試行錯誤して親としての力を育てていけるように支えていくことの方が重要です。様々な子育て支援において信頼関係が基本だと言われています。しかし、援助の前提ではなく、信頼関係を作っていくプロセス自体が子育て支援だといえるでしょう。

子育て支援の場の設定やプログラムの実施は、どこで何をするのかによって来る人を選んでいきます。「場をつくる」という視点で、今一度自園(所)の場所や取り組みを見直してみることが必要です。

子育て支援の場に来られない人をどうしたらよいかという声を聞きますが、それは保育園(所)・幼稚園よりも家庭訪問を担っている保健師等の専門職が出向く方が自然でかつ効率的です。その方が出て来ようと思ったときに園(所)で受け止める、その役割分担が重要です。そのためには、関係機関としっかりと連携していく必要があります。また、来られている方を支援することで、その来られている方々が地域の中で支援を必要としている他の家庭を支える役割を果たしやすくなることもあります。

今、自園(所)で行っている地域子育て支援に何か新しいアイデアをいれなければならないのではなく、地域と保護者、あるいは保護者同士をつなぐという視点から見直してみましょう。既に保育園(所)や幼稚園では多くのことを行っています。そして一園(所)で対処するのではなく、京都市全体をみんなで協力してカバーする視点を持ち、つながってっていくその姿勢が大切だと思います。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ
講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページへ

お知らせ

共同機構合同研修会 教育委員会保・幼・小・中連携推進事業報告会(仮題)
平成25年12月4日(水) 15:00~17:00 報告者 京都市立上京中学校に決まりました。

子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を
進めます。
(「子どもと共に育む
京都市民憲章」より)



発行日 平成25年9月19日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909
URL <http://www.kodomomirai.or.jp>